

IV. 四字熟語を覚えなさい。

四字熟語については、次のように出題します。

〈一〉次の四字熟語を完成させなさい。

せつ さ

□ □ 琢 磨

〈二〉次の四字熟語の読みがなを（ ）の中に書きなさい。

切 磋 琢 磨 ( )

〈三〉次の四字熟語の意味を簡単に説明しなさい。

切 磋 琢 磨

- 一・曖昧模糊 あいまいもこ
- 二・悪戦苦闘 あくせんくとう
- 三・安心立命 あんしんりつめい
- 四・暗中模索 あんちゅうもさく
- 五・唯唯諾諾 いいだくだく
- 六・意気軒昂 いきけんこう
- 七・意気消沈 いきしょうちん
- 八・意気投合 いきとうごう
- 九・意気揚揚 いきようよう
- 一〇・異口同音 いくどうおん
- 一一・意志薄弱 いしはくじやく
- 一二・以心伝心 いしんでんしん
- 一三・一意専心 いちいせんしん
- 一四・一期一会 いちごいちえ
- 一五・一日千秋 いちにちせんしゅう
- 一六・一念発起 いちねんほつき
- 一七・一網打尽 いちもうだじん
- 一八・一目瞭然 いちもくりようぜん
- 一九・一利一害 いちりいちがい
- 二〇・一蓮托生 いちれんたくしょう
- 二一・一獲千金 いかくせんきん
- 二二・一喜一憂 いっきいちゆう
- 二三・一気呵成 いっきかせい
- 二四・一騎当千 いっきとうせん
- 二五・一挙兩得 いっきよりようたく
- 二六・一刻一秒 いっこくいちびょう

あやふやではつきりしないさま。  
 苦しい戦いをする事。  
 天命を悟り、心安らかになる事。  
 よくわからぬままいろいろやってみる事。  
 少しもさからわず人の言いなりになるさま。  
 元気がいっぱいなさま。  
 元気がなくなる事。  
 たがいに気持ちがぴったり合う事。  
 得意でほこらしげなさま。  
 多くの人が口をそろえて同じことをいう事。  
 決断力がとぼしく、やりとげようとする心がよわい事。  
 言葉によらず気持ちを通じ合う事。  
 ひたすら一つのことに、心を集中すること。  
 一生に一度の出会い。  
 一日が千年にも思われるほど待ち遠しい事。  
 あることをなすとげようと決心し熱心になる事。  
 一度に一味を残らずとらえる事。  
 一目見ただけではつきりしているさま。  
 利益もあるが害もある事。利と害が同じくらいある事。  
 善悪にかかわりなく行動や運命をとともにすること。  
 苦労しないで一度に大きな利益を得ること。  
 状況が変わるたびに喜んだり心配したりすること。  
 大急ぎで仕事をしてしまう事。  
 並外れて、すぐれた力量を持っていること。  
 一つのことをして、二つの利益を得ること。  
 少しの猶予もままならない状態。

- 二七．一刻千金　　いつこくせんきん  
 二八．一瀉千里　　いつしやせんり  
 二九．一觸即発　　いつしよくそくはつ  
 三〇．一進一退　　いつしんいつたい  
 三一．一心同体　　いつしんどうたい  
 三二．一心不乱　　いつしんふらん  
 三三．一世一代　　いつせいいちだい  
 三四．一石二鳥　　いつせきにちよう  
 三五．一朝一夕　　いつちよういつせき  
 三六．一長一短　　いつちよういつたん  
 三七．一刀兩断　　いつとうりようだん  
 三八．意味深長　　いみしんちよう  
 三九．因果応報　　いんがおうほう  
 四〇．有為転変　　ういてんべん  
 四一．右往左往　　うおうさおう  
 四二．海千山千　　うみせんやません  
 四三．紆余曲折　　うよきよくせつ  
 四四．雲散霧消　　うんさんむしょう  
 四五．榮枯盛衰　　えいこせいすい  
 四六．岡目八目　　おかめはちもく  
 四七．温厚篤実　　おんこうとくじつ  
 四八．温故知新　　おんこちしん  
 四九．外柔内剛　　がいじゅうないごう

ひとときが千金に値するほどすばらしいこと。  
 物事が非常にはかどり一気に進むこと。  
 ちよつとしたことで大事になりそうな危険な状態にあること。  
 情勢がよくなったり悪くなったりすること。  
 二人以上の人間が心も体も一つであるかのように結びつくこと。  
 心を一つのこと集中してほかのことにみだされないこと。  
 一生のうちただ一度であること。一生にまたとない立派なことをすること。  
 一つのことをして、二つの利益を得ること。  
 わずかな日時。ほんの少しの間。  
 よい点もあるが、悪い点もあるということ。  
 物事を思い切ってあざやかに処理すること。  
 表現の意味する内容が深くふくみがあること。言外に別の意味があること。  
 行いの善悪に応じて、それにふさわしいむくいがあること。  
 万物は激しく変化し常なるものがないこと。  
 うるたえまごつくさま。  
 さまざまな経験をして世の中のことに通じることがしこいこと。  
 まがりくねり、いりくんでいること。  
 ちりじりに消えうせること。  
 さかえたりおとろえたりすること。  
 当事者より第三者のほうがかえって物事を正確に判断できる。  
 おだやかでやさしく誠実で親切なこと。  
 古いことを研究して、そこから新しい知識や道理を発見すること。  
 表面はおだやかに見えるが、実際は意志などが強いこと。

- 五〇・快刀乱麻 かいとうらんま  
 五一・臥薪嘗胆 がしんしょうたん  
 五二・花鳥風月 かちようふうげつ  
 五三・隔靴搔痒 かつかそうよう  
 五四・我田引水 がでんいんすい  
 五五・画竜点睛 がりようてんせい  
 五六・感慨無量 かんがいむりよう  
 五七・冠婚葬祭 かんこんそうさい  
 五八・勸善懲惡 かんぜんちようあく  
 五九・危機一髪 ききいっぱつ  
 六〇・奇奇怪怪 ききかいがい  
 六一・危急存亡 ききゆうそんぼう  
 六二・起死回生 きしかいせい  
 六三・起承転結 きしょうてんけつ  
 六四・喜色満面 きしよくまんめん  
 六五・疑心暗鬼 きしんあんき  
 六六・奇想天外 きそうてんがい  
 六七・喜怒哀楽 きどあいらく  
 六八・旧態依然 きゆうたいいぜん  
 六九・急転直下 きゆうてんちよつか  
 七〇・興味津津 きようみしんしん  
 七一・虚虚实実 きよきよじつじつ  
 七二・曲学阿世 きよくがくあせい  
 七三・玉石混淆 きよくせきこんこう

もつれた物事を、あざやかに処理すること。

目的を達成するために、長い間並々ならぬ苦勞をすること。

自然の美しい風物。風流。

靴の上からかゆいところをかくように、はがゆくもどかしいこと。

自分の都合がいいように考えたり行ったりすること。

物事の最も大事な部分。最後の仕上げ。身にしみて深く感じることに。

習慣として行われている慶弔の儀式。

よいことをほめすすめ、悪いことをいましめこらしめること。

非常にあぶないせとぎわ。

非常にめずらしくふしぎなさま。

生き残るかほろびるかのとぎわ。

死にかかっている人やほろびかかっているものを生きかえらせること。

漢詩、特に絶句の構成法で、起は詩意を起こし、承はそれを承けて述べ、転は一転して別の境地を述べ、結は全体を結ぶこと。

うれしさいっぱいの顔つき。

心に疑いをもって見ると、何でもないとまであやしく思われるということ。

思いもよらないようなとつびなこと。

よろこびと、いかりと、かなしみと、たのしみ。

昔からの状態のまま変化や進歩が見られないさま。

事態が急にかわって決着すること。変化が急激であること。

おもしろみが次々にわきつきないこと。たがいに計略をつくして争うさま。

学問の道理を曲げて時勢にこびへつらうこと。

良いものと悪いものとが入りまじっていること。

- 七四・虚心坦懐 きよしんたんかい  
 七五・金科玉条 きんかぎよくじょう  
 七六・謹厳実直 きんげんじつちよく  
 七七・空前絶後 くうぜんぜつご  
 七八・空中楼阁 くうちゅうろうかく  
 七九・空理空論 くうりくうろん  
 八〇・群雄割拠 ぐんゆうかつきよ  
 八一・軽拳妄動 けいきよもうどう  
 八二・捲土重来 けんどちようらい  
 八三・厚顔無恥 こうがんむち  
 八四・巧言令色 こうげんれいしよく  
 八五・荒唐無稽 こうとうむけい  
 八六・公明正大 こうめいせいだい  
 八七・呉越同舟 ごえつどうしゅう  
 八八・孤軍奮闘 こぐんふんとう  
 八九・虎視眈眈 こしたんたん  
 九〇・故事来歴 こじらいれき  
 九一・誇大妄想 こだいもうそう  
 九二・孤立無援 こりつむえん  
 九三・五里霧中 ごりむちゅう  
 九四・言語道断 ごんごどうだん  
 九五・才色兼備 さいしよくけんび  
 九六・山紫水明 さんしすいめい  
 九七・自画自賛 じがじさん

心にわだかまりがなく気持ちがあつぱりしているさま。

何より大事にしている規則。自分が行動するうえで絶対的なよりどころにしていく事柄。

つつしみ深く、まじめなこと。

前にも後にも例がないこと。きわめてまれなこと。

架空の事柄。

現実からかけはなれた実際の役に立たない理論。

多くの英雄がそれぞれの領地にたてこもって争うこと。

軽はずみな行動をすること。

一度失敗した者が勢力を盛りかえしてくること。

はじ知らずであつかましいこと。

巧みな言葉で愛想よくすること。

根拠がなくでたらめなこと。とりとめのないこと。

公平で私心がなく正しく堂々としていること。

利害の対立する者がたまたま同じ場所、同じ立場にいること。

力を貸す者がなくただ一人でたたかうこと。

機会をじつとねらっているさま。

伝わっている事物のいわれや由来。

自分の状態を大げさに空想して事実と思ふこと。

一人だけはなれていて助ける者がいないこと。

事情がわからずどうしてよいかわからないうこと。

とんでもないこと。もつてのほか。

女性がすぐれた才能と美しい容貌の両方に恵まれていること。

美しい山水の形容。

自分の行為や自分にかかわることを自分でほめること。

九八・色即是空 しきそくぜくう

九九・自給自足 じきゆうじそく

一〇〇・四苦八苦 しくはっく

一〇一・自業自得 じごうじとく

一〇二・自縄自縛 じじようじばく

一〇三・自然淘汰 しぜんとうた

一〇四・時代錯誤 じだいさくご

一〇五・七転八倒 しちてんぱつとう

一〇六・質実剛健 しつじつごうけん

一〇七・自暴自棄 じぼうじき

一〇八・四面楚歌 しめんそか

一〇九・弱肉強食 じやくにくきようしよく

一一〇・縦横無尽 じゅうおうむじん

一一一・終始一貫 しゅうしいっかん

一一二・衆人環視 しゅうじんかんし

一一三・十人十色 じゅうにんといろ

一一四・自由奔放 じゆうほんぼう

一一五・主客転倒 しゆきやくてんとう

一一六・取捨選択 しゆしゃせんたく

一一七・酒池肉林 しゆちにくりん

一一八・首尾一貫 しゆびいっかん

一一九・順風満帆 じゆんぷうまんぱん

一二〇・盛者必衰 じようしゃひつすい

一二一・正真正銘 しょうしんしょうめい

一二二・枝葉末節 しようまつせつ

万物の形は仮のもので本質は無であるということ。

必要な物を自ら生産してまかなうこと。非常に苦しむこと。人間のあらゆる苦しみ。

自分が行った悪事の報いは自分の身に受けなければならぬ。

自分のしたことが原因で動きがとれなくなる。

環境に適応できるものが生き残り、適応できないものが滅びること。

時勢がつかめず昔のやり方を守っていること、時代遅れ。

苦痛にころげまわってもがくこと。のたうちまわること。

かざりけがなく、まじめで、強く、たくましいこと。

なげやりな態度をとること。すてばちになること。

まわりがすべて敵で孤立していること。弱い者が強い者のえじきになること。

思う存分ふるまうさま。思うままに活躍するさま。

言行がはじめから終わりまで変わらないこと。

大勢の人々がとりまいて見ているさま。好み、考え、性格などは、人によりまちまちである。

自分の思うとおりにふるまうこと。軽重や順序が、あべこべになること。

良いもの、必要なものを選び取り、悪いもの不要なものを捨てること。

非常にぜいたくな酒宴。

全体を通じて、筋が通っていること。物事が調子よく進みはかどること。

勢いの盛んな者も、いつかは必ず衰えるということ。この世の無常であることをいう。

うそ、いつわりがないこと。主要でない、つまらない細かいこと。

- 一三三．諸行無常　しよぎようむじょう
- 一二四．初志貫徹　しよしかんてつ
- 一二五．支離滅裂　しりめつれつ
- 一二六．心機一転　しんきいつてん
- 一二七．伸縮自在　しんしゆくじざい
- 一二八．神出鬼没　しんしゆつきぼつ
- 一二九．信賞必罰　しんしょうひつぱつ
- 一三〇．針小棒大　しんしょうぼうだい
- 一三一．新進気鋭　しんしんきえい
- 一三二．新陳代謝　しんちんたいしゃ
- 一三三．深謀遠慮　しんぼうえんりよ
- 一三四．森羅万象　しんらばんしょう
- 一三五．晴耕雨読　せいこううどく
- 一三六．生殺与奪　せいさつよだつ
- 一三七．誠心誠意　せいしんせい
- 一三八．正堂堂　せいせいどうどう
- 一三九．青天白日　せいてんはくじつ
- 一四〇．清廉潔白　せいれんけつぱく
- 一四一．切磋琢磨　せつさたくま
- 一四二．絶体絶命　ぜつたいぜつめい
- 一四三．千客万来　せんきやくばんらい

世の中の全ての物は、変化してやまない  
ということ。

初めのころざしを、つらぬきとおすこ  
と。

ばらばらで、まとまりがないこと。めち  
やめちなこと。

あることをきつかけにして、気持ちを生  
く入れかえること。

のばしたりちぢめたりが、思いのままな  
こと。

非常にすばやく現れたり消えたりするこ  
と。

功績のある者には必ず賞を与え、罪を犯  
した者は必ず罰すること。

小さなことを、大げさに言うこと。

新しく出てきて認められ、意気込みが盛  
んなこと。また、その人。

古いものが去り、新しいものがこれに代  
わること。生物が不必要なものを体外に  
出し、必要なものを取り入れること。

遠い将来のことまで深く考え、はかりご  
とをめぐらすこと。

天地の間のいっさいのもの、いっさいの  
現象。

天気の良い日には田畑をたがやし、雨の  
日には読書をする。また、そういう  
自由な生活。

生かすも殺すも思いのままであること。  
まごころをもって、ことにあたること。  
態度が正しく立派なさま。

やましいところがないこと。無罪が明ら  
かになること。

心や行いが清く正しく、やましいところ  
がないこと。

たがいはげましあい競いあつて、学徳  
をみがくこと。

どうしてものがれられない、せつぱつま  
った状況にあること。

多数の客が、たえまなくつぎつぎやって  
くること。

- 一四四．千軍万馬 せんぐんばんば
- 一四五．千載一遇 せんざいいちぐう
- 一四六．千差万別 せんさばんべつ
- 一四七．前人未踏 ぜんじんみとう
- 一四八．戦戦恐恐 せんせんきょうきょう
- 一四九．前代未聞 ぜんだいまもん
- 一五〇．前途遼遠 ぜんとりょうえん
- 一五一．千变万化 せんぺんばんか
- 一五二．創意工夫 そういくふう
- 一五三．相思相愛 そうしそうあい
- 一五四．率先垂範 そつせんすいはん
- 一五五．大器晚成 たいきばんせい
- 一五六．大義名分 たいぎめいぶん
- 一五七．大言壮語 たいげんそうご
- 一五八．泰然自若 たいぜんじじゃく
- 一五九．大胆不敵 だいたんふてき
- 一六〇．大同小異 だいどうしょうい
- 一六一．多士济济 たしせいせい
- 一六二．多种多样 たしゆたよう
- 一六三．单刀直入 たんとうちよくにゅう
- 一六四．朝令暮改 ちようれいぼかい
- 一六五．直情径行 ちよくじようけいこう
- 一六六．猪突猛进 ちよつもうしん
- 一六七．沈黙考 ちんしもっこう
- 一六八．適材適所 てきざいてきしよ
- 一六九．徹頭徹尾 てつとうてつび
- 一七〇．天衣无缝 てんいむほう
- 一七一．天涯孤独 てんがいこどく

経験がゆたかで場なれしていること。  
 またとない絶好の機会。  
 多くのものがそれぞれさまざまに異なっているさま。  
 今まで誰も足を踏み入れていないこと。  
 びくびくと恐れつつしむさま。  
 今までに聞いたことがない珍しいこと。  
 行き先がはるかに遠いこと。これからの道のりが長いこと。  
 さまざまに変化すること。  
 新しく考え出し、よい方法を見つけること。  
 男女がたがいに、したい愛しあうこと。  
 他の人に先立って行動し、手本となること。  
 大人物は大成するのに時間がかかるということ。  
 だれもがもつともだと認める道理、理由根拠。  
 実力もないのに大きなことを言うこと。  
 物事に動ぜず平然としているさま。  
 度胸があつて物おじしないこと、  
 だいたい同じで少しちがうこと。大差ないこと。  
 すぐれた立派な人物が多いさま。  
 種類が多くさまざまであること。  
 前置きや余談をぬきにして、ただちに要点、本題にはいること。  
 命令や規則がくるくるかわること。  
 感情を直ちに言動に出すこと。  
 向こう見ずに勢いよくまっすぐに突き進むこと。  
 ものおもいにしずんで、静かに考えこむこと。  
 才能に最もふさわしい用い方をする事  
 最初から最後まで。一貫して。  
 自然でむじゃきなこと。技巧のあとが見えず完全で美しいこと。  
 身寄りがなくたった一人であること。



一七二・天下無双 てんかむそう

世界で並ぶものがないほど優れていること。

一七三・電光石火 でんこうせっか

行動がきわめてすばやいこと。きわめて短い時間。

一七四・天真爛漫 てんしんらんまん

純真で底ぬけに明るいきさま。

一七五・天変地異 てんぺんちい

天地の間に起こる異変。

一七六・当意即妙 どういそくみょう

その時に適応したその場の機転。

一七七・同床異夢 どうしょういむ

同じ立場にいながら思惑がちがうこと。

一七八・東奔西走 どうほんせいそう

あちこちかけまわること。

一七九・独断専行 どくだんせんこう

自分だけの考えで、思うとおりにすること。

一八〇・特筆大書 とくひつたいしょ

ことさらに目立つように書き記すこと。

一八一・独立独歩 どくりつどっぽ

他に頼らずひとりだちして、自分の思うとおりに行うこと。

一八二・内憂外患 ないゆうがいかん

国の内と外との両方に、心配事があること。

一八三・難攻不落 なんこうふらく

攻めにくくて、容易に陥落しないこと。

一八四・南船北馬 なんせんほくば

各地をたえずせわしく旅行すること。

一八五・二者択一 にしゃたくいつ

二つのうち、どちらか一つを選びとること。また、どちらか一つを選ばなければならぬこと。

一八六・二束三文 にそくさんもん

数が多く非常に値段が安いこと。

一八七・日進月歩 にっしんげつぽ

日に日に進歩すること。

一八八・馬耳東風 ばじとうふう

人の意見や忠告に、全く耳をかさないこと。聞き流すこと。

一八九・波瀾万丈 はらんばんじょう

浮き沈み、変化が激しいこと。

一九〇・罵詈雑言 ばりぞうごん

口ぎたなく悪口を言いのしること。

一九一・半信半疑 はんしんはんぎ

なかば信じ、なかばうたがうこと。本当かうそか、どっちだろうとまよっているさま。

一九二・美辞麗句 びじれいく

美しくかざりたてた言葉と立派な文句。

一九三・眉目秀麗 びもくしゅうれい

顔立ちが非常にととのいきれいなこと。

一九四・百戦錬磨 ひやくせんれんま

かずかずの実戦や経験を積んできたえられること。

一九五・百花繚乱 ひやつかりょうらん

さまざまな花が咲きみだれること。すぐれた人物や業績が一時期にたくさん現れること。

一九六・百発百中 ひやつぱつひやくちゅう

予想や計画がすべてあたること。

- 一九七．表裏一体 ひょうりいつたい  
 一九八．疲労困憊 ひろうこんぱい  
 一九九．風光明媚 ふうこうめいび  
 二〇〇．不俱戴天 ふぐたいてん  
 二〇一．不言実行 ふげんじつこう  
 二〇二．不撓不屈 ふとうふくつ  
 二〇三．付和雷同 ふわらいどう  
 二〇四．粉骨碎身 ふんこつさいしん  
 二〇五．平身低頭 へいしんていとう  
 二〇六．变幻自在 へんげんじざい  
 二〇七．暴飲暴食 ぼういんぼうしょく  
 二〇八．傍若無人 ぼうじゃくぶじん  
 二〇九．茫然自失 ぼうぜんじしつ  
 二一〇．抱腹絶倒 ほうふくぜつとう  
 二一一．本末転倒 ほんまつてんとう  
 二一二．無為自然 むいしぜん  
 二一三．無学文盲 むがくもんもう  
 二一四．無我夢中 むがむちゆう  
 二一五．無知蒙昧 むちもうまい  
 二一六．無病息災 むびようそくさい  
 二一七．無味乾燥 むみかんそう  
 二一八．名譽毀損 めいよきそん  
 二一九．面目躍如 めんぼくやくじょ  
 二二〇．有害無益 ゆうがいむえき  
 二二一．優柔不断 ゆうじゅうふだん  
 二二二．有名無実 ゆうめいむじつ  
 二二三．勇猛果敢 ゆうもうかかん  
 二二四．悠悠自適 ゆうゆうじてき  
 二二五．油断大敵 ゆだんたいてき  
 二二六．用意周到 よういしゅうとう  
 二二七．羊頭狗肉 ようとうくにく

二つのものの関係が密接で切りはなせないこと。  
 極度につかれること。  
 自然のながめが、すぐれて美しいこと。  
 いっしょには生存できないこと。殺したいほど、うらみや憎しみが深いこと。  
 黙って行うこと。  
 どんな困難にもくじけないこと。  
 見識がなく軽々しく他人の意見にしたがうこと。  
 力のかぎりつくすこと。一所懸命に働くこと。  
 身をかがめ恐縮するさま。  
 変化がすばやくたくみなこと。  
 度を越して飲んだり食ったりすること。  
 人前をはばかりせず勝手気ままにふるまうこと。  
 気ぬけしてぼんやりしてしまふこと。  
 腹をかかえて笑いこぼれること。  
 大切なこととそうでないことを混同すること。  
 自然のままて人手が加わっていないこと。  
 無学で字がよめないようす。  
 ある事に熱中してわれを忘れること。  
 知識がなく物事の道理に暗いこと。  
 病気もなく元氣であること。  
 おもしろみのないさま。  
 よい評判をそこないきずつけること。  
 大いに面目をほどこすこと。  
 害があつて益のないこと。  
 ぐずぐずして煮え切らないさま。決断力がないこと。  
 名ばかりで実態のないもの。  
 勇気があつて強く決断力に富んでいること。  
 思うままに静かな生活を送ること。  
 気をゆるめると、とんでもないことになるから注意せよということ。  
 用意がゆきとどいていること。  
 見かけ倒し。

- 一三二八・離合集散　りごうしゅうさん
- 一三二九・流言飛語　りゅうげんひご
- 一三三〇・竜頭蛇尾　りゅうとうだび
- 一三三一・理路整然　りろせいぜん
- 一三三二・臨機応変　りんきおうへん
- 一三三三・論功行賞　ろんこうこうしょう

はなれたり合わさったりすること。  
 事実ではない無責任なうわさ。  
 はじめは勢いがよく、終わりになるにつれてふるわないこと。  
 物事や話のすじ道が、ととのっているさま。  
 その場その時に応じた適切な処置をとること。  
 てがらの有無や大小を論じ定めて、ほうびを与えること。